

プロトコール名 胃癌 PTX+サイラムザ療法

適応 治癒切除不能な進行・再発の胃癌

投与期間 4週を1コースとして投与

投与計画

薬剤名	基準量
パクリタキセル	80 mg/m ²
サイラムザ	8 mg/kg

薬剤名	投与量	Day	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28
パクリタキセル	80mg/m ²		↓							↓							↓													
サイラムザ	8mg/kg		↓														↓													

(day1、15)

- ①生食100ml(ルートフラッシュ用)
- ②生食50ml+ビスマー1A(30min)
- ③生食20ml+ファモチジン20mg 1A (iv)
- ④グラニセロン1B+オルガドロン4A (30min)
- ⑤生食250ml+サイラムザ 8mg/kg (* 初回60min、2回目以降に30minに短縮可) 投与前後、生食にてルートフラッシュ
- ⑥生食100ml (1時間経過観察)
- ⑦生食250ml+パクリタキセル 80mg/m² (1hr)
- ⑧生食50ml (5min)

ファモチジンiv

↓

生食100ml	ビスマー 生食50ml	グラニセロン オルガドロン	サイラムザ 生食250ml	生食100ml	パクリタキセル 生食250ml	生食50ml
	30分	30分	*	1時間	1時間	5分

(day8)

- ①生食50ml+ビスマー1A(30min)
- ②生食20ml+ファモチジン20mg 1A (iv)
- ③グラニセロン1B+オルガドロン4A (30min)
- ④生食250ml+パクリタキセル 80mg/m² (1hr)
- ⑤生食50ml (5min)

ファモチジンiv

↓

ビスマー 生食50ml	グラニセロン オルガドロン	パクリタキセル 生食250ml	生食50ml
30分	30分	1時間	5分

パクリタキセル・サイラムザは0.22ミクロン以下のインラインフィルターを通して投与すること

パクリタキセル製剤は無水エタノールを含むため、アルコール過敏の有無・通院方法を確認する

サイラムザは生食で希釈すること

●休薬・減量基準

・次表の基準を満たせば、実施可能

	day 1	day 8 及び day 15
白血球数	3000/mm ³ 以上	2000/mm ³ 以上
好中球数	1500/mm ³ 以上	1000/mm ³ 以上

・次表の基準をを目安に減量・休薬をおこなう

AST・ALT		T-Bil	投与量
10×ULN未満	かつ	1. 26～2×ULN	25%減量
10×ULN未満	かつ	2. 01～5×ULN	50%減量
10×ULN以上	または	5×ULNを超える	中止

蛋白尿	1日尿蛋白量2g以上	初回発現時	1日尿蛋白量2g未満に低下するまで休薬 再開する場合には6mg/kgに減量
		2回目以降の発現時	1日尿蛋白量2g未満に低下するまで休薬 再開する場合には5mg/kgに減量
	1日尿蛋白量3g以上	中止	
	ネフローゼ症候群	中止	

※尿蛋白量はUPCR比(尿中蛋白量/尿中クレアチニン濃度)で代用可

高血圧	症候性のGrade2	降圧薬による治療をおこない血圧がコントロールできるようになるまで休薬
	Grade3以上	降圧薬による治療をおこなってもコントロールできない場合には、中止

初版 2020. 6. 15 作成

2版 2021. 3. 25 更新